

## 2025年度 第3四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2026年1月29日(木)16:00~17:10

### 全体

Q: 今期業績予想の上振れ余地は。

A:

- ・為替が現状レベルで推移すれば、売上高は100億円強、営業利益は10数億円の上振れ。  
また、営業利益は経費削減により10数億円の上振れ。

Q: 原材料価格高騰による今期営業利益への影響は。

A:

- ・対前年で3Q 累計約40億円、4Q 10数億円、年間50数億円の減益影響がある。  
特に、銅、銀の価格が上昇している。製品販売価格への転嫁を進めているが、回収にはタイムラグが生じている。

Q: 来期業績見通しの懸念される外部要因と対策は。

A:

- ・素材価格高騰の推移および足元で顕在化しつつある日中関係のビジネス影響が懸念される。  
素材価格高騰は価格転嫁により影響を極小化する。来期以降は状況を注視していく必要がある。

### エネルギー

Q: 3Q 受注高が対前年で233億円増加した要因は。

A:

- ・発電プラントで案件の受注時期のズレなどもあり対前年で100%以上伸長した。
- ・エネルギーマネジメントでは蓄電システム関連のビジネスが200%以上伸長する一方、変電システム関連は案件の遅れにより若干受注が減少した。
- ・施設・電源システムは少し遅れが出ていたが、1月に大口案件を受注して増加傾向と見ている。

Q: 受注残の状況は。

A:

- ・2024年12月末時点と比較すると、2025年12月末時点では富士電機単体ベースで30%程度受注残が増えている。海外の連結子会社では富士SMBE社が海外向けのデータセンター需要を取り込み伸長しており、受注残が対前年で10%程度増加している。

Q: 営業利益率が上期11.5%から3Q 14.7%に改善した理由は。また、収益性改善の継続性は。

A:

- ・全てのサブセグメントで改善傾向にある。進行基準案件は、12月や3月の年度末にかけて完納し、売上が集中しやすい。それらの物量増に加え、ものづくりの生産性向上により収益性が改善した。
- ・営業利益率の通期目標14%をベースに4Qはさらに改善を図っていきたい。

Q: 4Q 営業利益が対前年で 54 億円増益となる要因は。

A:

- ・発電プラントの昨年度 4Q 損失引当の反動に加え、足元で好調なエネルギー・マネジメントと施設・電源システムで継続的な改善が期待できる。現状の計画から更なる利益の上積みに取り組んでいる。

Q: データセンタービジネスの北米進出に向けた進捗は。

A:

- ・案件受注までは、規格認証取得に若干の遅れはあるものの、当初計画の範囲内で進捗している。早ければ今期末から案件を受注する予定。

### インダストリー

Q: 低圧インバータの在庫状況および受注環境は。

A:

- ・期初から市中 在庫の削減に取り組んできており、特約店や主要顧客等の在庫は正常化し始めている。
- ・受注は 9 月に対前年で増加、10 月、11 月で再度減少したものの、12 月に増加した。今後はお客様の生産計画に応じて回復する見通し。
- ・国内は、需要低迷が底を打ったと見ており、受注は 12 月から好調に推移し始めている。データセンター関連を含めた半導体装置メーカー向けの増加に加え、銅線の価格上昇を背景に盤メーカーが先行発注する傾向が見られた。
- ・海外は、中国が不透明な状況にあるものの、お客様の生産は好転基調に入ったと見ている。
- ・今後の需要動向は、お客様の状況を注視し、精査していきたい。

### 半導体

Q: 3Q 対 2Q で受注高が増加した要因は。

A:

- ・産業分野は、FA 分野向け需要の増加。再エネ向けは横ばい。
- ・電装分野は、SiC、欧米顧客向け需要の増加および新規顧客向け立ち上がりにより増加。

Q: 4Q の受注見通しは。

A:

- ・為替影響を除くと、産業分野および電装分野ともに 3Q 並みの見通し。
- ・産業分野は、中国の再エネ向けは春節影響で若干減少するが、国内の NC/サーボ向けは若干増加の見通し。
- ・電装分野は、欧米顧客向けは 3Q 先行受注影響もあり減少するが、SiC 需要は増加の見通し。

Q: 3Q 営業利益の社内計画比は。

A:

- ・社内計画比では、為替影響を除き売上高の減少影響等により減益。

Q: 4Q および来期営業利益の見通しは。

A:

- ・為替影響を除き売上高の増加に加え、SiC 6 インチの設備投資における補助金受領に伴う資本費の減少および欧米顧客向けを中心とした販売価格改定で対 3Q 増益の見通し。
- ・来期は銅・銀などの素材価格高騰影響が見込まれる。目標値は精査中だが、今期 4Q の営業利益率は継続しないだろう。

Q: SiC の売上高比率および収益性の見通しは。

A:

- ・今期売上高は対前年 2 倍弱となり、電装分野の 10% 程度。来期は 20% 超となる見通し。
- ・利益率は対前年で改善の見通し。

Q: 自社および顧客側の在庫状況は。

A:

- ・自社在庫は、コントロールできている。
- ・お客様の在庫は、電装分野および FA 分野で若干あり、正常化には少し時間がかかる見通し。  
電装分野はお客様ごとに差異はあるが、グローバルで在庫を抱えている認識。

Q: 来期需要の見通しは。

A:

- ・産業分野は、中国政府の補助金政策が出なければ再エネ向け需要はあまり増えない見通し。  
FA 分野向けは緩やかに回復しており、特に NC/サーボ向けの需要が増加する見通し。
- ・電装分野は、SiC モジュールが新車種に採用され、下期から立ち上がる計画。一方、旧モデルの終息および欧米顧客中心とした在庫調整により、売上高の回復には時間がかかる見通し。

Q: 設備投資額の今期および来期の見通しは

A:

- ・今期は SiC 8 インチおよび 6 インチ向けを中心に 400 億円弱の見通し。  
SiC 6 インチへの設備投資はほぼ終了しており、来期は今期から大きくは増えない見通し。

以 上